

アイヌ民族文化研究センターだより NO.35

2011年 9月

●もくじ

・山田秀三文庫の資料から 美深町・恩根内付近のテシの地形 ……1
・企画展「アイヌ語地名を歩く」 「2011・稚内」／「2011・名寄」 ……2
・研究課題紹介 アイヌ口承文芸「和人の散文説話」の資料に関する調査研究 ……3
・公開している資料から 山田秀三氏の講演記録 ……4
・寄贈を受けた資料 ……6
・お知らせ ……8

〔企画展（共催）〕

アイヌ語地名を歩く

ー山田秀三の地名研究からー

開催中です！ 9月16日～ 稚内市
11月19日～ 名寄市

詳しくは2ページ及び8ページをご覧ください。

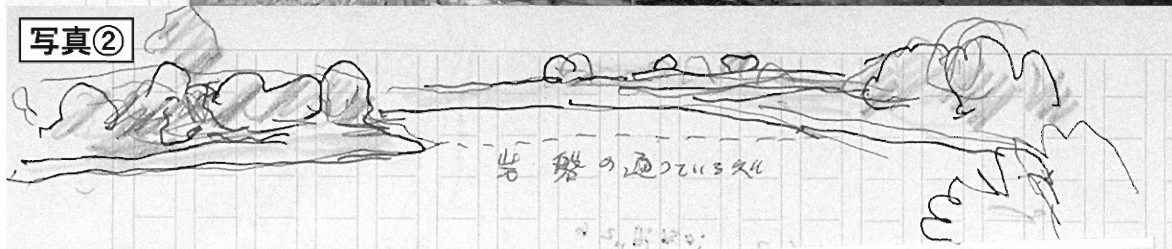
山田秀三文庫の資料から 美深町・恩根内付近のテシの地形 (YF0052)

写真①

テシ
(岩)



写真②



アイヌの伝統的な漁具に、木や柴で川を横切る垣のようなものを造って魚を獲る「テシ」と呼ばれるものがあります。その「テシ」のように、川を横切っている岩礁や、それに近いような川底の岩盤のあるところに、「テシ」に由来する地名が付くことがあります。

『センターだより』第25号で紹介した「弟子屈(てしかが)」もその例です。また、北海道の北部を流れる「天塩(てしお)川」も、川筋に「テシ」の地形があったことによるとされており、松浦武四郎は、美深町恩根内付近の「テシ」が由来の場所だと書いています。

今回紹介するのは、山田秀三氏がこの「テシ」に関心をもち、1978(昭和53)年7月に現地を調査したときの記録の一部です。

写真②は、1898(明治31)年の地形図に「テシ」と記されている場所で、山田氏は写真の上に地形のようすを描いたスケッチを添えて写真の情報を補っています。写真①は、それよりやや下流(北側)にある、同じ地形図に「カマテシカ」と記されている場所です。

これらの土地を調査したときのようすについて、山田氏は著書『北海道の地名』(北海道新聞社、1984年)で、右のように書いています。

テシ／カマテシカ

〔前略〕美深市街の方からなら約8キロ北行した処に、明治31年5万分図にはテシと書いてある。天塩日誌が天塩の名の発祥地と書いたテシらしい。行ってみると天塩川の古川(近年河道を直線に直して古川となった)が大きく曲がって国道のそばまで出ている辺であった。岩は見えない。土地の人らしい老人が道路工事をしていたので、ここかと思う辺を指して、岩がなかったかと聞いたら、「あそこは岩盤が川を横切っていて、ずっと浅い。渇水季になると、瀬はきつかったが、じゃぶじゃぶ歩いて向こう岸まで行けたよ」という。念のため、音威子府の同好高橋基氏に現場調査を話した処、調べられて、その通りだったと語られた。川浅いされる前は岩がテシ(梁)のように出ていたからの名であろう。老人と一緒に働いていた青年が、ここと同じような処が恩根大橋の処にもありますよというので行って見た。

明治31年図にカマテシカと書かれた処だった。kamatsh-ka「平たい岩の・梁の・上(あるいは岸か)」の意。橋から眺めると、すぐ上の処で、ここでは岩盤が川を横切っている姿がはっきり見られる。こんな形の岩が処々の川の中にあつたので天塩の名が生まれたのであろう。

山田秀三『北海道の地名』(北海道新聞社、1984年)より

企画展(共催)

「アイヌ語地名を歩く 山田秀三の地名研究から 2011・稚内」開催中

当研究センター所蔵「山田秀三文庫」の資料を紹介する「アイヌ語地名を歩く 山田秀三の地名研究から 2011・稚内」を、稚内市教育委員会との共催で、現在稚内市内の下記の2会場で開催しています。

アイヌ語地名研究の第一人者であった故・山田秀三氏による宗谷地方の地名調査の資料を紹介しています。また、宗谷地方とも関連の深い樺太(サハリン)での採録資料として、当センター所蔵の「久保寺逸彦文庫」(アイヌ語やアイヌ口承文芸の研究者であった故・久保寺逸彦氏の研究資料)の資料もあわせて展示しています。皆さまのさらなるお越しをお待ちしています。

■稚内市立図書館

(稚内市大黒4丁目1-1)

期 間: 9月16日(金)

～10月16日(日) 10:00～20:00(土・日・祝は10:00～18:00)

休館日: 月曜日および9月29日(木)

※入場無料

■稚内市北方記念館

(稚内市ヤムワッカナイ)

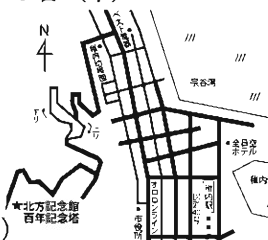
期 間: 9月17日(土)

～10月30日(日) (9月)9:00～21:00 (10月)9:00～17:00

休館日: 9月は無休、10月は月曜日が休館

(ただし10月10日は開館し、翌11日(火)が休館)

※北方記念館・百年記念塔の入場料が必要です(一般・大学生・高校生¥400(団体¥320)、中学生・小学生¥200(団体¥160))。



また、この企画展の関連事業として、当センター職員による展示解説講座を9月16日に、3名の講師による講演会「稚内・宗谷からアイヌ文化を考える」を、9月17日に開催しました。

●展示解説講座

9月16日(金) 18:30～20:00 稚内市立図書館

講師: 当研究センター職員



●講演会「稚内・宗谷からアイヌ文化を考える」

9月17日(土) 14:30～17:30 稚内市立図書館

講師: 佐々木 利和氏(北海道大学教授)

本田 優子氏(札幌大学教授)

佐藤 知己氏(北海道大学教授)



佐々木利和氏

本田優子氏

佐藤知己氏



会場には、計90名(講座30、講演会60)のご来場をいただきました。ありがとうございました。

企画展(共催)

「アイヌ語地名を歩く 山田秀三の地名研究から 2011・名寄」を開催します

上記の「2011・稚内」に続き、名寄市を中心とする地域の資料を紹介する展示を、名寄市北国博物館との共催で開催します。ご来場をお待ちしております。

会 場: 名寄市北国博物館

(名寄市緑丘222)

※企画展は入場無料ですが、同館の常設展の観覧には観覧料が必要です。

期 間: 11月19日(土)～

12月25日(日) 9:00～17:00

休館日: 月曜日



また、企画展関連事業として次の講座・講演会を開催します。会場は、いずれも名寄市北国博物館です。

●展示解説講座

11月19日(土) 13:00～14:00

講師: 当研究センター職員

●講演会「名寄・道北のアイヌ文化をさぐる」

11月19日(土) 14:30～17:00

講師: 北原 次郎太氏(北海道大学准教授)

田村 将人氏(北海道開拓記念館学芸員)

研究課題紹介

アイヌ口承文芸「和人の散文説話」の資料に関する調査研究

この調査研究は、平成24年度から3年間の予定で取り組もうとしているものです。対象とする物語のジャンル「和人の散文説話」について、これまでの研究で述べられてきた特徴と、今回改めて調査を行う必要性や研究方法の概要を説明します。

* * * * *

アイヌ口承文芸は、歌謡、呪文、ことば遊び、改まった場でのあいさつ言葉などと幅広く様々な伝承を含んでいます。その中で、物語としての内容をもつ伝承は一般に、英雄叙事詩、神謡、散文説話の三つのジャンルに大別されています。この中で散文説話は内容によって、①カムイの散文説話 ②人間の散文説話 ③和人の散文説話 ④パナンペ・ペナンペの散文説話 の四つに区分されており、本調査は③を対象としたものです。

これは日本の民話（伝説・昔話・世間話の類）がアイヌ語で語られたものであり、通常は和人が主人公として語られます。これまでの研究では、金田一京助ⁱや久保寺逸彦ⁱⁱらが、物語の日本語訳やあらましを紹介するとともに、①②は主人公が第一人称叙述形式をとるのに比べ、③④は主人公が三人称で語られることが大きな特徴であり、③は他に比べて日本語の語彙が多く出現することなどを指摘していました。しかしその後は、これらの点について十分な検証がされたことはありませんⁱⁱⁱ。

* * * * *

筆者が和人の散文説話について関心を持ったのは、昨年夏に当センターに寄せられた「和人の散文説話を分析してアイヌの和人観を抽出したいので、関係資料を知りたい」という問い合わせがきっかけです。筆者が文献で確認できた限りでは、紹介されていたのはいずれも日本語訳ばかりで、その数も15編程度と、決して多いとはいえません。上に述べたような特徴の検証のほか、日本のどのような民話がアイヌ語で語られているのか、といった点にも興味がわきます。

そこで、筆者自身が採録していた③に該当する説話をアイヌ語原文対訳のかたちで昨年度の研究紀要に報告^{iv}するとともに、これまでの研究や関連する資料を改めて概観してみたところ、物語の内容や口演形態にいろいろなバリエーションがあることがうかがえました。例えば、日本民話からの直訳のようなもの、神謡のように韻文で語ったもの、物語の舞

台が変化して②と③の区分が困難になったものなどがあります。これまでの研究がこうした様々なデータに基づいた上で議論されているようには思えません。近年のアイヌ口承文芸研究では、ジャンル区分の基準についての整理や歴史性に関する分野で前進がみられます^v。さらなる口承文芸研究の進展を図るために、③の説話は②や日本民話を比較する素材として適切であり、その基礎的調査が重要であると思います。

* * * * *

③が採録された主な資料として、北海道立図書館所蔵「金田一京助ユーカラ・ノート」、当研究センター所蔵「久保寺逸彦文庫 文書・音声資料」、北海道立文学館所蔵「知里真志保旧蔵ノート」などのほか、金成マツなどのような語り手自身が書き残した筆録ノートがあり、これらの目録も作成されています。しかし、これらの目録には和人の散文説話を意味するアイヌ語の“sisam uwepeker”や“sam uwepeker”という表題が記されているだけなので詳しい内容がわかりません。

本研究では、基本的に上記の資料群から③の所在を確認し、その採録状況（資料名、記録媒体、採録時期、伝承地、伝承者、表題等）と物語の内容を把握することにより、それぞれのアイヌ語原文のテキストが、日本のどの地域のタイプに近いのかといった、より具体的な検証が可能になるデータ作成を第一の目標とします。そのためにも、まずはストーリー展開などを読み取るためのアイヌ語原文のテキスト化が重要な仕事となると考え、これらの作業に取りかかる準備をしているところです。

(研究職員 大谷洋一)

i 金田一京助『アイヌ叙事詩 ユーカラ概説』平凡社東洋文庫(1931)

ii 久保寺逸彦『アイヌの昔話』三弥井書店(1971)

iii モチーフの比較分析による研究として、遠藤志保「和人の散文説話の特徴－『鬼鹿毛』と小栗照手譚の比較から－」『文学部の新しい波(2001年度優秀卒業論文集)』千葉大学文学部(2002)がある。

iv 大谷洋一「和人の散文説話－継母から殺されかけた姉を救った妹－」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第17号』北海道立アイヌ民族文化研究センター(2011)

v 中川裕・志賀雪湖・奥田統己「アイヌ文学」『岩波講座 日本文学史 第17巻』岩波書店(1997)、本田優子編『伝承から探るアイヌの歴史』札幌大学附属総合研究所(2010)

公開している資料から

山田秀三文庫音声資料 山田秀三氏の講演記録

当研究センターでは、寄贈を受けた「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」、職員による採録資料などを、平成15年度から順次公開しています。このコーナーでは、これまでに公開した資料の中からいくつかを取り上げ、その特徴や意義、あるいは関連する情報などをお知らせしています。

アイヌ語地名研究の第一人者である山田秀三氏は、生前、道内・外の様々な場所で、地元の人々などの求めに応じて、アイヌ語地名に関する講演会や研修会などで講師をつとめています。

当研究センターでは、ここ数年、関係する方々のご厚意により、山田氏によるこうした講演のうち下記の3つの講演の録音を複写により収集させていただくことができました。これらはいずれも、保存のためデジタル化を行うとともに、録音内容を確認した上で、当研究センターにおいて公開しています。

* * * * *

3つの録音のあらましは、次のとおりです。

●浦河町での講演 (公開用資料番号CC800189、190)

1979(昭和54)年7月21日、浦河地方の地名調査のため同町を訪れた山田氏が、地元の関係者らの希望に応じて行った講演会の録音です。

講演では、最初に、地名に関する基本的なアイヌ語の単語についていくつか説明した上で、浦河町内の主な地名を順に解説しています。

●白老町での講演 (公開用資料番号CC800204、205)

1984(昭和59)年9月25日、同町のアイヌ民族博物館が主催した山田氏の講演会「アイヌ語と地名」の録音です。このときも、講演の当日と翌日に、白老地方の地名を調査しています。

講演では、冒頭、白老のすぐ隣の登別市に工場を置く北海道曹達株式会社の社長をつとめていた山田氏が、なぜ今まで白老地方の地名をあまり調査してこなかったかということについて説明したのち、白老町内の主な地名を、東から西へ、順に説明していきます。さらに、山田氏が自身の長年にわたる地名調査をとおして考えるようになった、アイヌ文化の地域差と、そのなかでの白老地方の位置など、たいへん示唆的な問題にも話が及んでいます。

●標津町での録音 (公開用資料番号CC800221～223)

1987(昭和62)年7月12日、標津町教育委員会の主催により開催された講演会の録音です。このときも山田氏は、当日と翌日に、標津町のほか、隣の羅臼町、中標津町などの地名を調査しています。

講演で山田氏はまず、標津地方のような、道東地

方と呼ばれる中でももっとも東に位置する地域のアイヌ語地名の持つ意義などを述べ、続けて、標津町から羅臼町に至る海岸沿いの主な地名や、標津川沿い



に中標津町に至る地域の主な地名を解説しています。

* * * * *

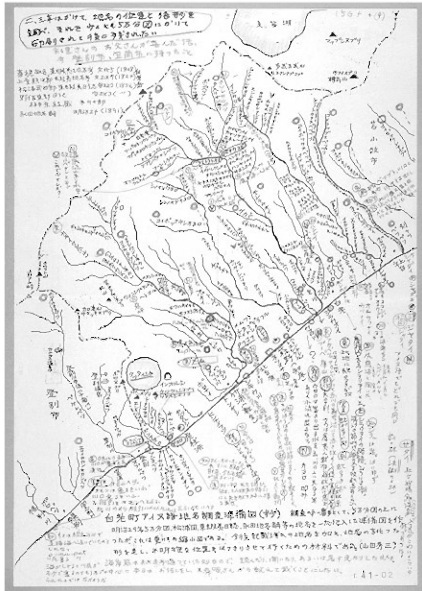
これらの資料の特色や意義はいくつもあります。

まずは、何といても山田氏の声を聞けることです。山田氏を直接知る人には大変懐かしく、山田氏の話の直接聞いたことのない人にとっても、あのチャキチャキとした聞きやすい口調のわかりやすい語りを聞ける、得難い機会になるのではないのでしょうか。

次に、講演の内容そのものの興味深さです。3つの講演はすべて、それぞれの地域の地名について山田氏が調べた内容を解説したもので、地元の方にとってはそれ自体が親しみ深い内容だと思われます。そればかりでなく、講演の中で山田氏は、アイヌ語地名に関する語彙についての基本的な説明から、アイヌ語地名の分布をとおして考えられるアイヌ文化の地域差など、最新の研究内容に関わる話までを語っており、その後の質疑応答も含めて、録音を聞きながら、わくわくした気持ちになってきます。

浦河の講演では、地元のアイヌ文化伝承者として知られた浦川タレ氏らが参加していたので、山田氏は、講演の途中、しばしば、地元の伝承について浦川氏らに尋ねながら話をすすめています。標津の講演会でも、会場にいた郷土史研究者である本田克代氏らに、講演の途中で何度か地元の情報などを尋ねており、こうしたやりとりを聞くことができる点でも、たいへん貴重な記録だと思います。

白老町の講演については、その概要が『アイヌ民族博物館だより』第8号(1984年11月)に掲載されており、標津町での講演については、講演の録音を起こしたものに山田氏自身が手を入れて書き直した原稿が『標津町ポー川史跡自然公園紀要 しべ



白老町アイヌ語地名調査準備図 (YF0496)

『自然 歴史 文化』第2号(1993年)に掲載されています。しかしながら、講演の録音にはこれら活字化されたものには含まれていない話題がたくさん入っており、そうした点でも他に得難い内容の資料だと思われますⁱⁱ。

* * * * *

当研究センターが所蔵する「山田秀三文庫」の中には、これらの講演に関連する資料が多数含まれており、講演の録音と一緒に見ていくことで、講演会の講演の内容をより深く理解することができます。

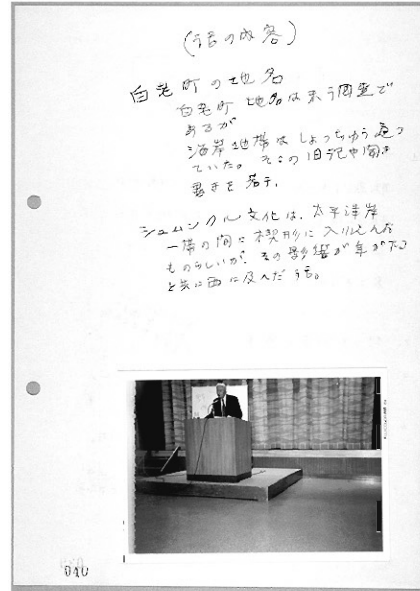
たとえば、3回の講演のいずれにおいても、山田氏は前後にその地域での地名調査を行っています。そのときの地名調査記録のファイルには、講演会で配布した資料や、講演の要点をまとめたメモなどが綴じられています。

とりわけ白老の地名調査記録ファイル(資料番号 YF0049)には、講演で資料として配布した「白老町アイヌ語地名調査準備図(抄)」が綴じられています。この地図には山田氏が赤、青、緑などのペンを使ってびっしりと地名などを書き込んでおり、裏面に「㊦控え」と鉛筆書きがあるので、講演の際に山田氏が手もとに置いて使ったものではないかと推測されます。

また、ファイルには山田氏によるさまざまなメモが記されていて、講演会やその前後の山田氏らのようすを、より具体的に、身近に感じることができることも、資料を読み進めていて楽しい点の一つです。

例えば、こんなぐあいですⁱⁱⁱ。

「白老町での地名講義／午後6時30〔分〕から公民館で／聴衆150人……終って別室で食



白老での講演のようす (YF0496)

事／食後、街の南向の処の珈琲店で約20人の懇談／羊蹄山の水でコーヒーを作って飲ませてくれた」(YF0049、039ページ)

「標津町での講演会／7月12日午後1時30-3.00／標津町公民館で。／……／参加約100人／……質疑活発。なかなか〔か〕よい会であった。」

(YF0496、057ページ)

* * * * *

アイヌ語地名はもとより、地域の地名や歴史、アイヌ文化に関心を持つ方々に、こうした資料を聞いていただき、活用していただけることができれば、と思っています。また、より多くの方にこれらの資料のことを知っていただき、使っていただけるよう、引き続き資料の公開などにつとめていきたいと思えます。

最後になりましたが、これらの講演会を企画・実施し、録音を残し、この度の当研究センターでの公開についてご理解をいただいた関係機関ならびにゆかりの方々に、あらためてお礼申し上げます。

i これらの講演については、『企画展図録 アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—』(当研究センター編集・発行、2007年)の「山田秀三年譜及び著作目録」の中に、主なものを記載しました。

ii ただし、標津の講演を活字化するに当たって山田氏は、録音の聞き起こしに大幅に手を入れています。このことからすれば、録音での山田氏の講演は、活字化された論文などと比べると、あくまでも構想や下書きに相当する箇所が多いであろうことも、弁えておくべきことだと思います。

iii 以下の引用箇所では、／は改行、……は中略した部分、〔 〕は研究センターによる注記を表します。また、紙面の都合で、一部のレイアウトを原資料の状態から変更しています。

寄贈を受けた資料

(2011年3月～2011年8月)

発行者名の50音順に資料名を掲載しています。
資料を寄贈していただいた方々・機関にお礼を申し上げます。

愛知県立大学多文化共生研究所

- ・共生の文化研究 5

アイヌ語地名研究会

- ・アイヌ語地名研究会会報 第41号
- ・(財)アイヌ文化振興・研究推進機構
- ・平成23年度 「アイヌ語ラジオ講座」テキスト Vol.1
- ・アイヌ民族：歴史と現在 未来を共に生きるために 【小学生用】
〔改訂版〕〔初版第4刷〕
- ・アイヌ民族：歴史と現在 未来を共に生きるために 【中学生用】
〔改訂版〕〔第2版第3刷〕
- ・アイヌ民族：歴史と現在 未来を共に生きるために 【教師用指導書】〔第2刷〕
- ・アイヌ民族：歴史と現在 未来を共に生きるために 【小・中学生向け副読本】CD-ROM
- ・アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告 第10号 上巻 研究篇
- ・アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告 第10号 下巻 資料篇
- ・ほろべつのアイヌご
- ・びほろのアイヌご
- ・ちとせのアイヌご
- ・初級アイヌ語 幌別
- ・初級アイヌ語 美幌
- ・初級アイヌ語 千歳
- ・中級アイヌ語 幌別
- ・中級アイヌ語 美幌
- ・中級アイヌ語 千歳
- ・アイヌ語教材テキスト入門編 補助教材ハンドブック
- ・アイヌ生活文課再現マニュアル 喫煙具 タンバクオハ・ニキセリ
- ・アイヌ：美を求める心
- ・千島・樺太・北海道 アイヌのくらし：ドイツコレクションを中心に
- ・第14回 アイヌ語弁論大会 イタカン ロー 報告書
- ・チュクチュエフ

アイヌ民族博物館

- ・白老アイヌ語地名マップ

青森県環境生活部県民生活文化課県史編さんグループ

- ・青森県史叢書 平成二十二年度 津軽の伝像
- ・青森県史 資料編 近世5 南部2 八戸藩領

青森県立郷土館

- ・青森県立郷土館研究紀要 第35号
- ・青森県立郷土館報 平成23(2011)年度版(通巻38号)

秋田県公文書館

- ・秋田県庁文書群 第8集
- ・秋田県公文書館 研究紀要 第17号
- ・秋田県公文書館だより 第26号
- ・秋田県公文書館所蔵古書目録第7集

旭川市博物館／旭川市博物館

- ・旭川市博物館研究報告 第2号、第3号
- ・旭川市博物館報 Vol.2、Vol.3
- ・旭川市博物館所蔵品目録 XX 民族資料／外来品関係：橈類1

厚真町教育委員会

- ・オニキシベ2遺

株式会社アレフ

- ・いま、未来を語るとは 環境を語ることだ 庄司昭夫発言集

浦幌町立博物館

- ・浦幌町立博物館紀要 第11号
- ・浦幌町立博物館年報 第11号

雄武町

- ・広報 おうむ Vol.959

大分県立歴史博物館

- ・大分県立歴史博物館年報 2010
- ・おおいた歴博 No.32

小樽市総合博物館

- ・小樽市総合博物館紀要 第24号

帯広百年記念館

- ・帯広百年記念館紀要 第29号

学習院大学史料館

- ・学習院大学史料館紀要 第17号
- ・ミュージアム・レター No.15、No.16

神奈川大学日本常民文化研究所

- ・歴史と民俗 27 神奈川大学日本常民文化研究所論集27
- ・民具マンスリー 第43巻第11号～第44巻第3号

上士幌ひがし大雪博物館

- ・上士幌ひがし大雪博物館研究報告 第33号

上ノ国町教育委員会

- ・史跡 上之国館跡IV
- ・国指定史跡 上之国館跡 花沢館跡 洲崎館跡 勝山館跡 保存管理計画

君尹彦氏文書調査団

- ・君尹彦氏文書調査団会報 雪解け 第2号

九州歴史資料館

- ・九州歴史資料館年報 平成21年度
- ・九歴だより No.32

釧路公立大学

- ・釧路公立大学紀要 人文・自然科学研究 第23号

群馬県立文書館

- ・群馬県立文書館 文書館だより 第48号

高知県牧野記念財団

- ・高知県立牧野植物園だより No.45、No.46

神戸市立博物館

- ・神戸市立博物館年報 No.26 平成21年度
- ・〔神戸市立博物館〕博物館だより No.98、No.99

国学院大学研究開発推進機構伝統文化リサーチセンター

- ・大場磐雄博士資料目録 III

国立民族学博物館

- ・月刊みんぱく 第35巻第3号～第8号
- ・民博通信 No.132、133
- ・国立民族学博物館研究報告 Vol.35 No.3、No.4

コブタン文学会

- ・コブタン No.34

札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部

- ・〔札幌大谷大学、札幌大谷大学短期大学部〕紀要 第41号

札幌学院大学学芸員課程

- ・札幌学院大学学芸員課程 年報 24

札幌市総務局文化資料室

- ・札幌市文化資料室研究紀要 公文書館への道 第3号
- ・文化資料室ニュース 第13号、第14号

札幌大学文化学部学芸員課程

- ・札幌大学学芸員課程年報 第8集

沙流川歴史館

- ・沙流川歴史館年報 第12号
- ・沙流川歴史館だより No.40、No.41

滋賀大学経済学部附属史料館

- ・西川伝右衛門家文書総目録
- ・滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要 第44号

『四宅ヤエの伝承』刊行会

- ・富水慶一採録 四宅ヤエの伝承 韻文編 1

標茶町郷土館

- ・標茶町郷土館報告 第23号

斜里町立知床博物館

- ・しれとこライブラリー10 知床の自然保護
- ・データブック知床・2010
- ・知床博物館第32回特別展図録 こんなに多様な知床の鳥たち
- ・知床博物館研究報告 第32集

新明英仁

- ・「アイヌ風俗画」の研究―近世北海道におけるアイヌと美術

鈴木トミエ

- ・新聞に見る 石狩・厚田・浜益 歴史年表 第8号 明治34年

世界人権問題研究センター

- ・研究第2部前近代班共同研究「前近代における救済の研究」報告書 救済の社会史
- ・2009年度講演録 講座・人権ゆかりの地をたずねて
- ・世界人権問題研究センター研究紀要 第16号
- ・グローブ No.65、No.66
- ・世界人権問題研究センター年報 2010年度
- ・世界人権問題研究センター年報 2010年度 別冊 世界人権問題研究センター共同研究

全国歴史利用保存利用機関連絡協議会

- ・全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 会報 No.89

先住民の10年市民連絡会

- ・先住民の10年 News 第172号～第176号

創価大学社会学会

- ・ソシオロジカ 第35巻第1・2号

伊達市噴火湾文化研究所

- ・Newsletter 噴火湾文化 Vol.5

千歳市教育委員会、千歳市総務部総務課文書統計係

- ・千歳市文化財調査報告書36 未広2遺跡(第2次調査)
- ・『新千歳市史』編さんだより 志古津 第13号

津田命子

- ・伝統のアイヌ文様構成法による アイヌ刺しゅう入門 ルウンベ編

鶴雅グループ

- ・"Road to the East Hokkaido, Japan"

ティムカウンセリング研究所

・ティムカウンセリング研究所紀要第5号

東京外国語大学語学研究所

・語学研究所論集 第16号

東京都江戸東京博物館

・江戸東京博物館NEWS Vol.73、Vol.74

東京都立大学社会人類学会

・社会人類学年報 Vol.25 1999

東北芸術工科大学東北文化研究センター

・季刊 東北学 第27号、第28号

・東北文化友の会会報 まんだら Vol.47、Vol.48

東北大学東北アジア研究センター

・東北大学東北アジア研究センター ニューズレター CNEAS

第48号、第49・50合併号

・東北アジア研究 15号

・高岡市立中央図書館蔵郷雲林刊行 『全像三国志伝』原典と解題(上) 東北アジア研究センター叢書 No.42

・ノマド化する宗教 浮遊する共同性 現代東北アジアにおける「救い」の位相 東北アジア研究センター叢書 第43号

・高岡市立中央図書館蔵郷雲林刊行 『全像三国志伝』原典と解題(下) 東北アジア研究センター叢書 No.44

・歴史の再定義：旧ソ連圏アジア諸国における歴史認識と学術・教育と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

・アイヌ民俗文化財・ユーカラシリーズ38 アイヌ英雄叙事詩「背緒

長の鱗」

・アイヌ民俗文化財・ユーカラシリーズ39 アイヌ英雄叙事詩「薄い

金、裂けた金」

・平成22年度アイヌ民俗文化財調査報告書 アイヌ民俗技術調査3

詳述調査

北海道大学総合博物館

・Biodiversity and Biogeography of the Kuril Islands and

Sakhalin Volume 3

・Living Conditions and Consciousness of Present-day Ainu :

Report on the 2008 Hokkaido Ainu Living Conditions Survey

・北海道大学総合博物館 企画展示 わが街の文化遺産 札幌軟石

・北海道大学総合博物館 企画展示 豊平川と私たち その生いた

ちと自然

・北海道大学総合博物館ニュース 22号

北海道大学大学院文学研究科

・北方言語研究 第1号

北海道大学大学文書館

・北海道大学大学文書館年報 第6号

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園

・北大植物園研究紀要 第10号

北海道文化財団

・北のとびら No.88

北海道文化財保護協会

・文化情報 第324号～第326号

北海道埋蔵文化財センター

・テエタ 北海道埋蔵文化財センターだより 第25号、第26号

・調査年報23 平成22年度

・北海道立埋蔵文化財センター年報12 平成22(2010)年度

・恵庭市西島松2遺跡 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第265集

・白滝遺跡群X1 北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第273集

・釧路町天寧1遺跡(2) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第274集

・北見市 北上4遺跡 北海道埋蔵文化財研究センター調査報告書

第275集

・フレベツ遺跡群IV 苫小牧市美沢16遺跡(2) 北海道埋蔵文化財研

究センター調査報告書 第276集

・森町 森川6遺跡 北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第277集

・木古内町木古内2遺跡 北海道埋蔵文化財研究センター調査報告書

第278集

・下川町北町J遺跡 北海道埋蔵文化財研究センター調査報告書 第279集

・木古内町 大平遺跡・大平4遺跡 北海道埋蔵文化財センター調査

報告書280

・木古内町蛇内2遺跡 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第281集

北海道立総合研究機構 農業研究本部

・平成23年 農業新技術発表会要旨(第29回)

・平成23年 道央圏農業新技術発表会要旨

北海道立図書館

・北の資料 124 北方資料室40周年 北方資料室の足跡をふりかえる

北海道立北方民族博物館

・第25回北方民族文化シンポジウム報告書 現代社会と先住民文化

：観光、芸術から考える ②

・北方民族博物館研究報告 3 能取岬西岸遺跡

・北海道立北方民族博物館研究紀要 第20号

・北方民族博物館だより No.80

北海道立文書館

・北海道立文書館調査研究事業報告書 第1号

本田雅和ほか

・環境レイズム アメリカ「がん回廊」を行く

宮崎県総合博物館

・森の通信 第50号

盛岡市先人記念館

・盛岡市先人記念館だより No.46

森町教育委員会

・森町埋蔵文化財調査報告書 第19集 鷲ノ木遺跡VI

ヤイユーカラの森

・Yay Yukar Park 69、70

利尻富士町教育委員会

・利尻富士町役場遺跡発掘調査報告書II

【海外】

・Arctic Studies Center Newsletter No.18



センターのホームページでは、寄贈を受けた資料のほか、購入した資料などについてもお知らせしています。

行事など

9月までに、次の行事の開催・参加を行いました。多くの皆様にご来場をいただき、ありがとうございました。

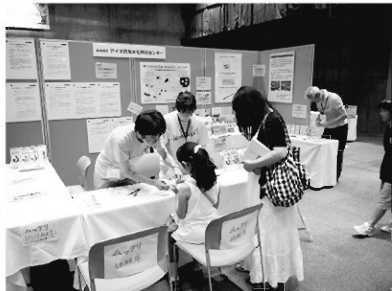
詳細は、センターのウェブサイトでも紹介しています。

■「2011サイエンスパーク」に参加しました

8月4日～5日、地方独立行政法人北海道立総合研究機構と北海道の共催による「2011サイエンスパーク」が、サッポロファクトリー（札幌市中央区）で開催され、当研究センターも第1日目に参加しました。

展示ブースでは今年も、小学校中学年を主な対象としてアイヌの楽器「ムックリ」の鳴らし方の体験指導を行い、好評を博しました。

当研究センターの展示ブースでのようす



■企画展

「アイヌ語地名を歩く 山田秀三の地名研究から 2011・稚内」を開催しています

2ページでもお知らせしたとおり、稚内市の2会場で企画展を開催しています。開催中のようすなど、詳しくは本紙2ページおよび当研究センターのホームページをご覧ください。

■企画展

「アイヌ語地名を歩く 山田秀三の地名研究から 2011・名寄」を開催します

上記の「2011・稚内」の後、今年度は引き続き名寄市にて「アイヌ語地名を歩く 山田秀三の地名研究から 2011・名寄」を開催します。詳しくは、本誌2ページや当研究センターのホームページをご覧ください。

会場：名寄市北国博物館

（名寄市緑丘222）

期間：11月19日（土）～12月25日（日）

9:00～17:00 月曜休館

平成23年度前半の動き

■人事短信

4月1日付

（転入） 副所長 原 浩司

（転入） 総務課主任 加納 季理

6月1日付

（転入） 総務課長 村上 誠一

センターの刊行物

平成23年4月から9月までに、この『センターだより』35号のほか、次の刊行物を発行しました。

●『北海道立アイヌ民族文化研究センター年報2010（平成22年度）』（6月発行）

- ・『年報』と『センターだより』は、当センターのホームページからもご覧いただけます。

●企画展パンフレット『アイヌ語地名を歩く 山田秀三の地名研究から 2011・稚内』（9月発行）

●企画展パンフレット『アイヌ語地名を歩く 山田秀三の地名研究から 2011・名寄』（9月発行）

- ・企画展パンフレットは、各会場で先着順に無料で配布しています。

アイヌ民族文化研究センターだより No.35

編集・発行 北海道立アイヌ民族文化研究センター
2011年9月30日

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1番地

緑苑ビル1F（北海道庁緑苑ビル庁舎）

電話 011-272-8801（代） FAX 011-272-8850

月～金／9:00～17:00（土・日・祝日／休）

URL <http://ainu-center.pref.hokkaido.jp>

E-mail hacrc.1@pref.hokkaido.lg.jp

この広報誌は、環境に配慮した用紙を使用しています（古紙配合率100%、白色度70%）。